

頁	項目	修正前	修正後
57	令和元年度一級択一式 No.4	<p>【解説】 ◆令和2年度版「建設機械施工技術必修」第1章LESSON 2参照</p> <p>(1) 土量変化率がL=1.3、C=0.8の土により100m³の盛土を施工する場合、必要なほぐした土量は125m³である。</p> <p>(2) の記述が適切である。</p> <p>(3) 変化率Lは、土の運搬計画の立案に用いられ、「ほぐした土量+地山の土量」で求められる。</p> <p>(4) 土量変化率Cは、土の種類によって異なる値となる。</p> <p style="text-align: right;">【解答】(2)</p> <hr/> <p>◆令和元年度一級択一式試験問題</p> <p>(No. 5) 土留め支保工に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。</p> <p>(1) 土留め支保工の撤去時は、土留め壁に作用している荷重を鋼材などで本体構造物に受け替え、土留め壁の変形を防止する。</p> <p>(2) 腹起しと土留め壁の間は、鋼製パッキン材などを挿入して密着させる。</p> <p>(3) 切ばりに火打ちを取り付ける場合には、偏荷重が作用しないように必ず対称に取り付ける。</p> <p>(4) キリンジャッキの取付け位置は、腹起しあるいは中間杭付近とし、同一線上になるように配置する。</p> <p>【解説】</p> <p>(1)、(2)、(3) の記述は適切である。</p> <p>(4) キリンジャッキの取付け位置は、腹起しあるいは中間杭付近とし、同一線上に並ばないよう千鳥配置とする。</p> <p style="text-align: right;">【解答】(4)</p> <hr/> <p>◆令和元年度一級択一式試験問題 ☆</p> <p>(No. 6) 土留め壁を用いた掘削に伴う地下排水工法に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。</p> <p>(1) ティープウェル工法は、土留め壁に沿って小さな井戸を多数設置し、真空吸引して揚排水する工法である。</p> <p>(2) ウェルポイント工法は、透水係数の比較的大きい砂層から小さい砂質シルトまで適用が可能である。</p> <p>(3) 地下排水工法では、地下水位の低下について検討し、観測井戸により水位低下を観測する。</p> <p>(4) 排水工法は、掘削作業を容易にするとともに、土留め壁及び底面の破壊または変形を防止する効果が期待できる。</p>	<p>【解説】 ◆令和2年度版「建設機械施工技術必修」第1章LESSON 2参照</p> <p>(1) 土量変化率がL=1.3、C=0.8の土により100m³の盛土を施工する場合、必要なほぐした土量は163m³である。</p> <p>(2) の記述が適切である。</p> <p>(3) 変化率Lは、土の運搬計画の立案に用いられ、「ほぐした土量+地山の土量」で求められる。</p> <p>(4) 土量変化率Cは、土の種類によって異なる値となる。</p> <p style="text-align: right;">【解答】(2)</p> <hr/> <p>◆令和元年度一級択一式試験問題</p> <p>(No. 5) 土留め支保工に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。</p> <p>(1) 土留め支保工の撤去時は、土留め壁に作用している荷重を鋼材などで本体構造物に受け替え、土留め壁の変形を防止する。</p> <p>(2) 腹起しと土留め壁の間は、鋼製パッキン材などを挿入して密着させる。</p> <p>(3) 切ばりに火打ちを取り付ける場合には、偏荷重が作用しないように必ず対称に取り付ける。</p> <p>(4) キリンジャッキの取付け位置は、腹起しあるいは中間杭付近とし、同一線上になるように配置する。</p> <p>【解説】</p> <p>(1)、(2)、(3) の記述は適切である。</p> <p>(4) キリンジャッキの取付け位置は、腹起しあるいは中間杭付近とし、同一線上に並ばないよう千鳥配置とする。</p> <p style="text-align: right;">【解答】(4)</p> <hr/> <p>◆令和元年度一級択一式試験問題 ☆</p> <p>(No. 6) 土留め壁を用いた掘削に伴う地下排水工法に関する次の記述のうち、適切でないものはどれか。</p> <p>(1) ティープウェル工法は、土留め壁に沿って小さな井戸を多数設置し、真空吸引して揚排水する工法である。</p> <p>(2) ウェルポイント工法は、透水係数の比較的大きい砂層から小さい砂質シルトまで適用が可能である。</p> <p>(3) 地下排水工法では、地下水位の低下について検討し、観測井戸により水位低下を観測する。</p> <p>(4) 排水工法は、掘削作業を容易にするとともに、土留め壁及び底面の破壊または変形を防止する効果が期待できる。</p>